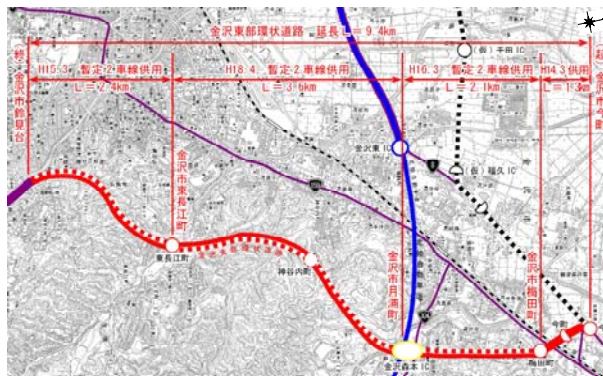


再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名 一般国道8号 <small>かなざわとうぶかんじょうどうろ</small> 金沢東部環状道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北陸地方整備局
起終点 自：石川県金沢市今町 至：石川県金沢市鈴見台	延長 9.4km	
事業概要 一般国道8号金沢東部環状道路は、地域高規格道路金沢外環状道路の一部を形成し、金沢都心部の交通渋滞緩和や地域間の連絡強化など、重要な役割を担っている延長9.4kmの道路である。		
S60年度都市計画決定 S62年度事業化 S63年度用地着手 H3年度工事着手		
全体事業費 1,200億円 事業進捗率 75% 供用済延長 9.4km		
計画交通量 16,600～45,700台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.5 (残事業) 6.5	総費用 (残事業)/ 事業全体 258/1448億円 (事業費：226/1416億円) (維持管理費：32/32億円)
総便益 (残事業)/ 事業全体 1669/5059億円 (走行時間短縮便益：1646/4900億円) (走行費用減少便益：20/123億円) (交通事故減少便益：4/36億円)		基準年 平成18年
感度分析の結果 ； 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=5.8～7.1（交通量±10%） 事業費変動：B/C=6.0～7.1（事業費±10%） 事業期間変動：B/C=6.1～6.9（事業期間±2年） 割引率変動：B/C=4.9～8.6（割引率±1%）		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保(現道等の混雑時旅行速度の改善が期待される) ・地球環境の保全(事業整備により自動車からのCO2排出量の削減が期待される) 他10項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 金沢東部環状道路は、交通混雑の緩和、都心部通過車両の分散機能等に重要な役割を果たすことが期待されており、金沢開発協議会等により早期4車線化整備の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 区画整理事業、金沢テクノパークの整備や大規模小売店舗の進出、金沢大学の移転など発生集中交通量の多い施設立地が進んでいる。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成18年度に全線暫定2車線供用済みである。今後、金沢市梅田町から鈴見台間の完成4車線整備が残る。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成20年代以降のできるだけ早期の全区間完成4車線化に向け事業を推進する。なお、早期整備効果が期待できる区間から優先して4車線化し、順次供用を図る。		
施設の構造や工法の変更等 コストの高いトンネル部において、新技術・新工法を積極的に採用するとともに、トンネル掘削土を他事業に提供することにより有効活用を図る。		
対応方針 ； 事業継続		
対応方針決定の理由 事業の効果並びに事業の実施状況を踏まえ、事業の継続が妥当である。		
事業概要図		



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。